

生田町連だより

第144号

発行所：生田地区町会連合会
 発行人：会 長 西尾 信
 編集人：総務部長 井上 信
 事務局：多摩区役所生田出張所内
 電 話：044-933-7111

生田町連管内の人口（令和5年3月末現在）

総人口：75,661人 男：38,118人 女：37,543人 世帯数：40,023世帯



今年度生田地区にオープンしたAnker フロントタウン生田。他にも、「生田ふれあい広場」「生田多目的広場」なども併せてオープンしました。

© KAWASAKI FRONTALE

「会長あいさつ」 会長 西尾 信



会員の皆様、暑い日々ですがいかがお過ごしでしょうか。日頃から生田地区町会連合会の事業活動に、ご協力、ご支援を頂き心より感謝申し上げます。

去る、5月23日に開催されました、令和5年度定時総会では、令和4年度報告、及び令和5年度計画、全て審議、承認いただき有りがとうござ居ました。

令和4年を振り返って見ますと8月以降に行動規制の大幅緩和が有りコロナに向き合いながらでしたがすこしずつ行動できました。

3年振りの土木説明会、婦人部の日帰り研修、町会・自治会役員一泊研修、又関係団体との、親子運動会、区民祭等も規模を縮小しましたが実施でき久しく開放感と喜びを感じる皆さんの笑顔が印象に残りました、街にも秋祭り、初詣等も戻って来た令和4年でした。

令和5年につきましては、コロナも感染症2類から5類への移行も有りました。事業の実施計画に当たりましてはコロナ発症前（令和元年）を基本とした内容で、役員会、理事会で充分審議すると同時に関係団体、行政の皆さんとも連携を図り進めてまいります。実施に当たりましてはコロナに十分配慮し実施する所存でござ居ます。

また、生田地区が「安全」で「安心」そして「住んで良かった」と思える地域づくり、町会・自治会の皆さんに取り組んでいただくことで実現出来ます。町連だより(142号)にも投稿させていただきましたが、川崎市にある、「活動応援補助金制度」を始めとした素晴らしい支援制度を活用しましょう。

私共町会連合会も関係行政の支援を受け

会員の皆さんと共に取り組んでまいります。

令和5年度事業計画の実現に向け、役員、理事全力で取り組んでいきますので、会員の皆様には、ご理解、ご協力をお願い申し上げます。

紙面案内

[1面]

- ・生田地区風景
- ・会長あいさつ



[2面]

- ・生田地区町会連合会「定時総会の開催」
- ・「生田地区アウトドアニューススポーツ体験会開催」

[3面]

- ・多摩消防団生田分団「交替式」
- ・生田地区カローリング体験会開催
- ・生田地区町会連合会からの「お知らせ」

[4面]

- ・窓「稲目町会」
- ・協賛3社特集「生田山信行寺 春秋苑」
- ・表彰、町会・自治会の夏の行事

生田地区町会連合会定時総会開催される

去る令和5年5月23日(火)午後3時30分から生田出張所大会議室で生田地区町会連合会の令和5年度の定時総会が開催されました。遠藤副会長の司会及び開会のことばで始まり、西尾会長のあいさつと来賓として出席の藤井多摩区長様・濃沼稲田町会連合会会長様から祝辞を頂きました。事務局紹介のあと議長に加藤理事を

選出し議長就任のあいさつ後直ちに議事に入りました。令和4年度事業報告・同決算報告・審査報告を一括上程し、承認を得ました。但し事業報告書内に誤載があるので修正を行い、令和5年度事業計画(案)同年予算(案)を一括で上程し承認を得ましたのですべての(案)の抹消を行ない活動が開始されました。その他の項で

①生田町連だより143号の件、②生田小学校下校庭の現状報告の件、③町会・自治会の活動支援(広報)の件、④町会・自治会活動応援補助金の件等に事務局から説明があり、その後会員から質疑もなく議長退任後、黒須監事の閉会のことばで総会が終了しました。

(生田地区町会連合会総務部長 井上信)

生田地区アウトドアニュースポーツ体験会開催

生田地区スポーツ推進委員会初! 野外イベント開催!

今年度、例年開催を行っていた、「町会親善ソフトボール大会」が、グラウンドの使用の関係上で開催が見合されました。しかし、生田地区スポーツ推進委員会の熱い思いは止まりません。今年度オープンしたAnkerフロント生田の隣に同じくオープンした「生田多目的広場」で生田地区スポーツ推進委員会初の野外イベントの開催をしようと、役員中心に十分な審議を行い、令和5年6月18日(日)に開催されました。

当日行った種目は3種類。必要なのはボールと仲間。コンパクトなスペースで行える都市型野球「ベースボール5」、発祥はフィンランド最近人気沸騰中「モルック」、大阪生まれバリアフリースポーツ「スリーアイス」。「ベースボール5」では日本代表の宮之原健選手をインストラクターに迎え、基本的なプレーからより実践的なプレーまで丁寧に教えていただきました。

天候にも恵まれ、総数50名を超える体験会参加者が集まり、にぎやかな体験会でしたが、午後に近付くにつれ、気温も上昇し、直射日光も強くなったため参加者や実施委員の健康状態を考慮し、午前12時の終了といたしました。

来年度に「町会親善ソフトボール大会」が実施できるかまだ不明ですが、せっかく地域にできた貴重なスポーツ施設を利用したイベントなどをこれからも実施していきたいと考えています。

(生田地区スポーツ推進委員会委員長 松澤彰男)



▲ベースボール5



▲モルック



▲スリーアイス

楽しさ満載、スリル満点!

よみうりランド 044(966)1111

遊びを、まん中に。

屋内御廟(納骨堂)申込受付中

墓地新区画受付中
法事・葬儀随時受付

生田山信行寺 春秋苑

お気軽にお問い合わせください。

問い合わせ 044-977-3466
https://www.shunjuen.or.jp

8月19日(土)20日(日)は市民開放日

午前9時～午後4時 入場料・イベント料 無料

川国で遊ぼう!

川崎国際生田緑地ゴルフ場

TEL044-934-1555 FAX044-933-5612
https://www.tokyu-golf-resort.com/kawasaki/

多摩消防団生田分団【交替式】開催

はじめに、交替式典は生田地区町会連合会(以下、生田町連と略称)が主として合同で開催してきたもので、麻生区が区分する前から続いています。

今年度は令和5年6月11日(日)に、多摩消防団生田分団の交替式と団旗祭の開催が予定されました。

『団旗祭』は午前11時から市立枳形中学校グラウンドで行う予定でしたが、前日までの台風2号の影響でやむを得なく中止とし

ました。短期間で厳しい訓練を行ない、その成果を地域の皆さんにご披露する晴れ舞台となる大事な行事でしたので残念ではありません。

交替式については、同日の午後2時から生田出張所大会議室で開催されました。

交替式典は二年毎の開催で、生田町連、生田分団としても大事な行事です。

式典は生田町連遠藤副会長の司会で同町連防火防災部長の木下の開式の言葉が

ら始まり、同町連西尾会長が主催者として挨拶。井口多摩消防団長、村上多摩消防署長から祝辞がありました。引き続き漆原分団長から、退団者紹介、新役員紹介、新団員の紹介が行われ、感謝状が贈呈されました。

漆原分団長が代表して新年度の抱負を述べ生田分団交替式述べての式が結びとなりました。

(生田地区町会連合会防火防災部長 木下新一)

生田地区カローリング体験会開催

7月2日(日)カローリング体験会が生田小学校体育館で行われました。平成24年から体験会を始めて、今回10回目の開催となりました。この間、新型コロナウイルスの影響もあり中止となった年度もありましたが、地域の皆さんにも浸透してきたスポーツの一つだと思っています。

年々、総得点数も上昇し参加者の皆さん

の技術の上昇がみられるのが楽しく、ゆくゆくは大会にできればと実施委員を中心に検討しています。

より、地域の皆さんの身近に感じられるスポーツになるように、定期的な体験会の実施や物品の購入やレンタルなど、実施委員を中心に「地域のコミュニティ活性化」「健康増進」に努めてまいります。

カローリングだけではなく、様々なユニバーサルスポーツを体験会を通じて皆様に紹介できればと考えておりますので、興味のあるイベントがありましたら、ぜひご参加ください。

(カローリング体験会実施委員長 松澤彰男)



油断は禁物!

生田地区町会連合会からのお知らせ

新型コロナウイルス以外も感染拡大の兆しです

項目	変更前(～5/7)	変更後(5/8～)
外出制限	法に基づく外出制限	なし
検査費	医師が必要と認める検査は、自己負担分を公費負担	保険診療(※を除く) ※医療機関・高齢者施設等にて行政が集中検査を行う場合は(自己負担なし)として実施
外来医療費	外来医療費の自己負担分を公費負担(コロナの医療に係るもの)	保険診療 (9月まで新型コロナ治療薬に限り自己負担分を公費負担)
入院医療費	公費負担 ※食事代も含む (療養解除の基準を満たす迄のコロナの医療費)	保険診療 ※食事代は別途自己負担 (9月まで高額医療費の自己負担限度額から最大2万円減額)

2019年に新型コロナウイルスによる感染が公表されて以来、日本でも2020年始めから感染が拡大していきました。今年で3年経過し第8波まで経験しました。

2023年5月からこの新型コロナウイルスも2類から5類に変更され、インフルエンザと同様の扱いとなりました(主な変更項目を左表に示します。)。5月8日以降はマスクの着用など個人の判断に委ねられ、コロナ感染以前と変わらない生活になりつつあります。しかし油断は禁物です。新型コロナウイルス感染はなくなっておりません。最近では少しずつ増加傾向にあります。

その上、感染性胃腸炎やインフルエンザの患者報告数も増えてきています(川崎市ホームページより)。。気温が上がるとマスクもしづらくなります。重症化リスクを有する高齢者や新型コロナウイルスに罹患した人たちは、これまでと同様に慎重な生活行動が求められます。
(生田地区町会連合会総務部 本多正典)



No.92

稲目町会

稲目町会は
こんなところですよ

町会はどちらですか?専修大学の下です。現在300世帯ですが、いつごろから活動しているかを聞かれたら町会の御長老もあまりご存じなかったようです。最近専修大学の留学生が卒業論文にしたいと調べていただきました。その資料によると、稲目町会は明治時代には7件ほどの農家が冠婚葬祭の互助会を組織していたようです。その後大正時代に15件ほどに、昭和の初期には20件ほどに、平成になって畑や丘陵地にマンションができて300世帯を超えました。現在は広い空き

地などはなくなりましたので、これ以上には大きくならないのではないのでしょうか。

こんな町会です。冠婚葬祭をご自宅なさるご家庭はほとんどなくなりましたが、昔ながらの町会の催事は続いています。近隣町会でも桜の時期のお花見、この町会も近所の桜の名所栢形山に行っています、その昔町会の有志も桜の植林をしていました。お花見は皆さんでシートを担いで朝早く岡登りです。

また地域にある馬頭観音のお祭があります。この馬頭観音は昔五反川の川岸にあったもの、改修時に町会と専修大学の境に移築されました。8月お盆のころに子供からお年寄りまで集まって催事をおこなっています。

少子化といわれる昨今ですが町会の子ども会、数年前は構成人数が10人を切ってしまうので解散かと心配していましたが、現在子どもが増えて40人を超えて子ども会を盛り上げています。夏休みにラジオ体操や、仮装のハロウィンも例年の催事ですが、町会に隣接する生田緑地の畑をお借りしてサツマイモの芋畑をやっています。土に触れる機会の少ない子供たちが畑で泥んこになって耕し、暑い盛りの草刈り、秋には芋ほりで、「こんな大きなのが出てきた」とびっくりしている子供たち、毎年楽しみにしていますとのこと。この子供達、大人になって他県に行かれても、また、ここに帰ってくれるような魅力ある町会として続けていけたらいいなと思っています。(稲目町会会長 森一美)

協賛3社特集

第2弾【生田山信行寺 春秋苑】

本誌を発行するにあたり、長年にわたり3社にご協賛をいただいています。この協賛3社の特集として、第1弾は川崎国際生田緑地ゴルフ場さんの特集しました。

第2弾は生田山信行寺 春秋苑さんです。今回、支配人の坂本邦夫さんにお話を伺いました。普段は触れることのない仕事ぶりや苦労話など、生田町連だよりならではの内容でお伝えします。

昭和33年3月3日に日本で初めての公園墓地として開苑した春秋苑。春秋苑といえば、生田丘陵に広がる20万㎡という広大な墓苑であり、花々に彩られた豊かな自然の景観を観ることができる墓苑です。先代の住職がこの地に開苑することを決めたそうですが、先代は徳島県の住職だったそうです。「当時は周りに民家もなく、自然が広がる土地でしたが、先代に先見の明が合ったのか、この地を選び開苑し、以来、おかげさまで皆様から信頼とやすらぎの地として親しみを持っていただいています。」と話していました。

敷地が広大なだけに、日頃の管理で御苦労もあるのでは?と聞くと、「草取りなど、墓地のメンテナンスのことですが、墓地なので当然重機のような大きな機械は入れません。そのため人の手で丁寧に手入れをする必要があります。暑い時期は石が熱を吸収するため、とても暑く感じます。逆に寒い時期はとても寒く感じ、手入れには苦労しています。雪が積もったときは除雪作業で、

道の端に雪を寄せるのですが、この地は標高が高いこともあって、雪がなかなか溶けにくいというのも悩みです。」と話してくださいました。この苦労があるからこそ、人々から信頼とやすらぎの地として親しまれているのだらうと感じました。

春秋苑ではいろいろな行事が行われ、地域に貢献されています。その中でも特色のある行事を聞くと、亡き方へ感謝の気持ちを表すお盆の行事である「還燈会(かんとうえ)」が真っ先に挙がりました。今年は8月26日(土)に、4年ぶりに開催するそうです。見どころは、申込みされた人々から寄せられた献灯にひとつひとつ火を入れる「献灯点灯」だそうです。「当日は数千個の献灯が苑内を埋め尽くし、幻想的な世界を創り出しますので、是非ご覧になってください。」と話していました。また、クライマックスの花火打ち上げにも特色があるそうです。花火は空を見上げての鑑賞が普通ですが、還燈会の花火は春秋苑の敷地の下から打ち上げるため、来苑されている方は、上をあまり見上げることなく鑑賞できるそうです。還燈会以外の行事にも、除夜・元旦行事を行ったり、地域の盆踊りの場所と櫓の提供をしていることなどを話していただきました。坂本さんは「今後も還燈会や盆踊りなど、地域に根差した活動を継続的に行い、地域の活性化に貢献する、門前町のような形になれるよう、力を尽くしていきたいと思えます。」と、今後も地域の発展に尽くされることを語っていました。



▲昭和30年、中区域より現在の天翔の踏方面



▲令和5年、中区域より、天翔の礎を望む



▲還燈会の花火

表彰者(敬称略) 【川崎市美化運動実施多摩支部美化運動推進功労者表彰】 ● [団体] SIV(専修生田ボランティア) ● [団体] 大作自治会(環境衛生部)

町会・自治会の夏の行事

【東地区】●明王町会盆踊り7/29 ●根岸町会祭り9/9 ●鷺鷥沼自治会祭り9/9-10 ●飯室谷町会祭り9/9-10 ●榎戸交流会祭り9/9-10
【北地区】●土淵自治会夏祭り7/29 ●大作自治会盆踊り大会7/29-30 ●五反田自治会盆踊り7/29-30 ●山の手自治会納涼会8/5 ●月見台自治会盆踊り8/5-6
【南地区】●かりがね台お楽しみ会7/22 ●長沢自治会盆踊り7/28,29 ●栗谷町会納涼盆踊り大会7/29-30 ●春秋苑盆踊り8/4,5 ●還燈会8/26 ●三田台自治会祭り10/1